

「分からない時には素人にでも聞け」 唐渡・スポーツキャスターが強調 第164回CS研究会で

当社主宰の異業種交流会「CS研究会」の第164回例会が3月28日正午から中央電気倶楽部(大阪市北区堂島浜2)で約140人が参加して開かれました。講師の「ミスター・トラ」こと、スポーツキャスターの唐渡吉則氏(写真)が「あなたは素人ができますか」と題し講演。広岡達朗、落合博満、星野仙一の3名選手・名監督との超緊密な親交関係を通じて得た教訓「たとえプロでも、分からない時には素人にでも聞け」と強調して参加者の共感を呼んでいました。



唐渡氏は、日本のプロ野球中継専属リポーターはじめ、ラジオパーソナリティ・歌手・実業家(広告会社(株)クリエイティブタグ代表取締役)……と数多くの顔を持ち、80歳を迎えた今なお、第一線で八面六臂の活躍をされています。ちなみに、阪神タイガースの公認歌に指定されている『六甲おろし』は、1992年にカバーソングとして発表したもの。

【歌手への道諦める】

私は歌が上手いのが欠点。猪俣公章先生の弟子にしてもらおうと思って行ったところ、『影を慕いて』の歌詞を300回読んできたら弟子にしてやる」と言われた。読んでから(300回も読んでいなかったが…)行って歌うと、歌の出だしの「♪ま～ぼろしの～」の「ま」で「ダメ!」と何十回も言われたので、歌手になるのを諦めた。

【野村監督のエピソード】

公式開幕第1戦・対巨人戦が東京ドームで行われるので、早めに行ってベンチに行ったところ、作詞家の山口洋子さんが座っていて、『道頓堀(とんぼり)人情』の歌詞を野村監督に渡してくれ。これで、大阪の人の心がわかる」と言われたので「自分で渡したら」と言ったら「ノムさんのこと嫌い」との返事。「俺も嫌いやから」と断った。

【広岡達朗とのエピソード】

ある人を介して会ったところ、名刺を見ないし顔も見ない。2～3時間話したが顔を全く見ない。1週間後にも会ったが全く同じ。この年に10回ほど会って話したが顔も見ない。次の年にも10回ほど会ったが同じ。ところが、3年目の2月に家内

と一緒にTVを見ていた時に、突然、広岡氏から電話がかかってきて「バース、岡田、掛布のことを教えてくれ」と頼まれたので色々話した。

その夜の番組「サンデースポーツ」で、教えた通りに話ししていた。番組が終わってから電話がかかってきて「あれで良かったか」。

後日会ったとき「2年間、何で私の顔も見なかったんや」と聞いたところ「お前を試しとったんや」の返事。また、読売ジャイアンツの監督の話が浮上して潰れた時、「強くはなるが人気が出ない、と言われ長嶋監督になった」と電話で真実を吐露。

【星野仙一とのエピソード】

明治大学から中日ドラゴンズに入団して2年目からの付き合い。ある時、大阪で会う約束していたが、すっかり忘れていた。翌朝、急遽、宿舎の竹園荘に行って謝ったところ、怒るかと思ったが握手しながら丁寧な物言いで「これをご縁によりしく」と言われ「この男は大した奴だ」と見直した。

ある時「トラさん、阪神の監督のOK出したで」と電話がかかってきた。後日、会った時「阪神、どこから手付けたらいいのかわ教えてほしい」と言われたので「練習」したらあかん。「稽古」させなあかん。①ピッチャーはストレート②野手は真正面のゴロ③打者はセンター返し」と答えた。

監督就任2年目の5月に「ある事情で、岡田監督に代わらないとあかん」という電話がかかってきて、流れを作るために、「監督を病人にしよう」ということになった。なかなか芝居が上手かった。

【落合博満のエピソード】

ロッテ時代からの友達。三冠王を3回取ったが、2回目の時に阪急の石嶺に「左ピッチャーの打ち方教えてくれ」と訊いたところ「何も考えんと打ってます」と答えた。それが「目からウロコ」だった。

【広岡・星野・落合3人の共通点】

これほどのプロでも「プロ意識を頭から外して、素人になり、何でも人に質問できる」こと。

催しもの情報

3/30に国際交流PSH主催の桜の宴



10周年を迎えた、国際交流PSH(創立者・プロホロフ加代子氏)主催の「ユーリ・ガガーリン世界初有人宇宙飛行58周年記念・国際交流PSH桜植樹8周年記念～桜の宴～」が3月30日午後1時から在大阪ロシア連邦領事館で約80人が参加して開催。オープニングセレモニー(写真)に続いて、オレグ総領事と幸南食糧(株)川西修会長の記念講演、懇親会ではモンゴル国最高位勲章受章者・マハバル・サウガゲレル氏による馬頭琴・ホーミーなど盛りだくさんでした。